

高度に精製したベースオイル

ハーベストオイル®

©：登録商標



扱いやすい、便利な缶

便利その1

脈動防止付きで、
注ぎやすく時間も
短縮。

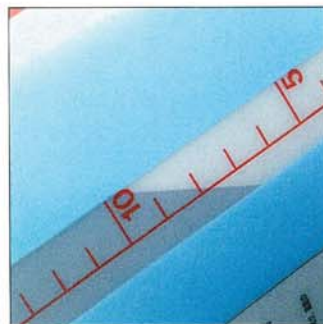
スムーズに注げるため、
天蓋に穴あけの必要
がなく、計量時間も
大幅に短縮できます。



便利その2

半透明だから、
容器のまま計量
できる。

計量窓から残量が見
えるので、缶のまま計
量できます。



便利その3

天蓋が簡単に
はずせる。

天蓋側面がテープ状
になっているので、切
り取るだけで簡単に
はずせます。



果樹・茶のハダニ類、カイガラムシ類、モモアカアブラムシ
いちご・きゅうりのうどんこ病、ハダニ類防除に



Bayer CropScience

使いやすい

高精製マシン油乳剤

ハーベストオイル®

農林水産省登録：第15180号
有効成分：マシン油……97.0%
毒性：普通物
第3石油類 危険等級Ⅲ・火気厳禁
包装：20ℓ×1、4ℓ×6

特長

- 独特の精製方法により、高度に精製したオイル(スルホン化価≒0)を使用しているため、生育期散布での急性的薬害の心配はほとんどありません。
- 安定した効果が期待できるよう、原料となるオイルの性状、界面活性剤など製剤面での考慮をしています。
- 薬剤抵抗性のついたハダニ類やうどんこ病にも有効で、抵抗性出現の心配はありません。
- 有機農産物に使用できます。

適用病害虫および使用方法

*本剤およびマシン油を含む農薬の総使用回数 2008年12月現在の登録

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用時期	使用回数*	使用方法
かんきつ	ミカンハダニ	60~80	冬期(12月~3月)	—	散布
		100~150	4月~5月		
		150~200	夏期(6月~7月中旬)		
		200	着色後または秋期(10月~11月)		
	400	3月~6月中旬	連続散布		
	アカマルカイガラムシ	60	冬期(12月~3月)		—
ヤノネカイガラムシ	60~80	夏期(6月~7月中旬)			
	150~200				
りんご	ハダニ類	50~100	芽出し直前直後		
		100	展葉期(発芽後2週間まで)		
		200	展葉期(発芽後3週間まで)		
なし	コナカイガラムシ類	50	発芽前		
		150~200	収穫後		
びわ	ハダニ類	100	10月~3月		
びわ(葉)	サンホーゼカイガラムシ	50	果実収穫後~開花前		
もも	モモアカアブラムシ		発芽前		
ネクタリン	ウメシロカイガラムシ				
おうとう すもも かき	コナカイガラムシ類		50~150	発芽前または摘採直後	
茶	カンザワハダニ	100~150	5月~9月		
		50~100	10月~3月		
		クワシロカイガラムシ	100~200	—	
きゅうり	うどんこ病	200	—		
いちご	ハダニ類	100	収穫後~萌芽前		
マンゴー	ハダニ類	100	—		

適用農薬名	作物名	使用方法
ベノミル剤	なし	本剤でベノミル剤を20倍に希釈し、塗布する

注意事項

- 高温時の散布では薬害を生じやすいので、散布は日中を避け、朝夕の涼しいときに所定濃度範囲の低濃度で行って下さい。
- 散布直後の降雨は効果が低下しますので、特に冬期散布においては好天の続くときに使用して下さい。
- 調製した薬液はすみやかに散布して下さい。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN剤等の水和剤および銅剤との混用は避けて下さい。
- かんきつに使用する場合は次の事項に注意して下さい。
 - ・散布後、葉(特に旧葉)に油浸斑を生じることがありますが日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはありません。ただし、かんばつなどで樹勢が弱っている場合には散布しないで下さい。
 - ・ジチアノン剤との近接散布はしないで下さい。
 - ・ジメトエートとの混用はヤノネカイガラムシ第1世代防除時期には、樹勢により、落葉を助長することがありますので避けて下さい。
 - ・ミカンハダニに対して400倍で使用する場合は、2週間から1カ月の間隔を置いて2回目の散布を行って下さい。
 - ・着色後に散布する場合、果面にべたつく感じが残ることがありますので、そのまま出荷する場合などには留意して下さい。

- ・秋期(10月~11月)に散布する場合、着色前および着色中の果実には散布しないで下さい。
- りんごに使用する場合、芽出し直後の散布は時期を失わないようにして下さい。遅れて散布しますと、葉の周囲が褐変することがありますので、使用濃度に注意して下さい。
- びわ(葉)に使用する場合、収穫間際の散布には葉にオイル光を生ずることがありますので避けて下さい。
- 茶の5~9月のクワシロカイガラムシ対象防除は摘採直後の幼虫発生期に行い、株元まで十分散布し、摘採前4週間は使用しないで下さい。なお、多発生の場合は希釈回数100倍で使用して下さい。
- きゅうり・いちごに使用する場合は次の事項を守って下さい。
 - ・幼苗期には使用しないで下さい。
 - ・発生初期から7~10日間隔でくりかえし散布すると有効ですが、過度の連用は避けて下さい。
 - ・収穫間際の散布は果実にオイル光を生じることがありますので、避けて下さい。
 - ・いちごには他剤との混用、近接散布はしないで下さい。
- 火気を避け、食品と区別して、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管して下さい。
- 特に開栓後は、乳化不良防止のため、ゴミ、水分などの混入を避け、密栓して保管して下さい。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届くところには置かないでください。
- 空缶は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室: ☎ 0120-575-078 (9:00~12:00, 13:00~17:00 土・日・祝祭日のぞく)

F-1007/08.12.ZN